

川崎市視覚障害者情報文化センター 2026 年度事業計画

川崎市内の視覚障害者の QOL(生活の質)の向上を目指し、市内全域にサービスを展開する。

重点項目

1. 図書館事業、訓練事業、用具事業を合わせもつ強みを活かしたサービスを行う。
2. 利用者の趣向に加え、川崎らしさの視点を加えた資料製作、資料提供を行う。
3. 相談・訓練については、ここ数年、長期的な訓練よりも短期的な相談ニーズが強い。そのニーズに合わせてスポット的な要望に積極的に応えていく。また、市内全域にスピード感を持って対応できるよう努める。
4. 見えづらくなった人が早期にセンターとつながるように、行政機関、眼科医療機関、障害者相談支援センター、リハビリテーションセンター、地域包括支援センターなど、地域資源との連携を図る。
5. 点訳・音訳・音声ガイド製作ボランティアの養成に努め、質の高い資料製作・音声ガイドの製作を進める。
6. 音声解説付き DVD 映画の体験上映会、ヨガ教室、れきおんクラブ、図書利用者交流会、コンサート、センターまつりなどの文化的イベントを開催する。
7. 市内公共図書館や関係機関との連携を通じて、読書バリアフリー法の推進に寄与する。
8. 災害に備え、飲料水や食料品などを計画的に備蓄し、川崎市視覚障害者福祉協会や他の関係団体と連携しながら防災・減災対策を進める。
9. 職員及びボランティアの業務効率化を目的として、AI に関する基礎的知識の習得・理解を深めるとともに、業務への適切な活用方法について検討を行う。

計画

【重点項目 1・2・3】

(1) 資料の閲覧・貸出

- ① 850 人(個人・団体)の利用登録者に対し、点字図書は年間 310 タイトル、録音図書はシネマ・デイジーを含め年間約 8,000 タイトルの提供を目指す。
- ② ダウンロードサービスにより点字・録音合わせて年間約 4,400 タイトルの提供を目指す。また、デイジーオンラインを使用して 300 タイトルの提供を目指す。
- ③ 点字雑誌は年間 200 タイトル、録音雑誌は年間 4,000 タイトルを提供し、総貸出数約 17,200 件を提供する。

(2) 資料製作

利用者の趣向に加え、川崎らしさの視点を加えた図書選定・映画選定を行い、点字図書を年間 40 タイトル、録音図書を年間 80 タイトル、シネマ・デイジーを年間 10 タイトル製作する。

(3) 訓練事業の取り組み

- ① 2025年度からの訓練継続者を含め、30名に歩行、生活、コミュニケーションなどの各種訓練を250回行う。
- ② 訪問指導や来所指導といった短期間での訓練指導、生活用具・各種機器の操作指導などを延べ780回実施する。
- ③ 市内ICTボランティアグループと連携をとり、必要な技術サポート、情報提供を行う。
- ④ 訓練・相談を終了し地域で生活する人たちを対象に、当事者同士の語り場を提供し、情報交換の機会を作る。

(4) 視覚障害者用具の展示と斡旋

- ① 視覚障害者のための日常生活用具と便利グッズ、最新機器などを展示し、斡旋販売を行う。また、補装具・日常生活用具の制度や申請の方法を積極的に周知する。
- ② 訓練担当と密に連携し、訓練生に様々な用具を紹介することでQOL(生活の質)の向上を図り、合わせて図書の利用にも繋げる。

【重点項目4】

(1) 啓発普及について

- ① 新刊情報誌「ぶつくがいど」(偶数月発行)に加え、メールマガジン(月2回)、音声版メールマガジン(奇数月発行)、ホームページで最新の情報をいち早く伝えるなど、広報活動に積極的に取り組んでいく。
- ② 当事者・家族、各区の高齢・障害担当、眼科医療機関、地域包括支援センター、障害者相談支援センター等に、センターへの理解を深めてもらうための動画を製作し、広く周知する。
- ③ 小中学校で行われる視覚障害啓発授業への講師派遣に協力する。
- ④ 見えづらくなった方が、センターに早期につながるができるよう地域の眼科医療機関、関係施設と連携を深めていく。
- ⑤ 視能訓練士養成校での講義を通し、医療と福祉の橋渡しとなる人材の育成に寄与する。
- ⑥ 市内の文化施設や地域資源とつながりを持ち、研修等を通じて視覚障害者への理解を深める機会を創出する。

【重点項目5】

(1) 点訳者、音訳者、音声ガイド製作者の養成

- ① 2026年度は点訳者養成講座を実施する。また、音訳者養成講座については、前年度策定した新たな講座の枠組みに基づき、試行的に基礎編を実施する。活動中の点訳者、音訳者を対象としたスキルアップ研修会・相談会は継続して開催する。
- ② デイジー編集業務を外部ボランティアグループに完全依存しているため、センター内でも製作のノウハウを蓄積および体制を整備すべく、職員の知識習得および編集ボランティアの養成に取り組む。
- ③ 映画の音声ガイドボランティアを積極的に受け入れ、製作タイトル数の安定化を図る。また既存のボランティアについては、製作過程において丁寧なフォローを行いながら養成を継続する。

(2) ボランティアとの連携・協力

- ① 点字図書、録音図書、テキストデージー図書、音声ガイドをボランティアの協力を得て、製作する。

【重点項目 6】

(1) 文化的事業の開催

- ① 音声解説付き DVD 映画の体験上映会を月 1 回（年 12 回）開催する。
- ② 図書を通して利用者同士が交流できるイベントを企画し、年 2 回開催する。
- ③ ヨガ教室を年 6 回、午前と午後の 2 クラス開催する。
- ④ れきおんクラブ、CD で聴くクラシック音楽講座、音楽コンサート、落語会などのイベントを開催する。
- ⑤ センターまつりを市内ボランティア団体、及び川崎市視覚障害者福祉協会の協力を得て年 1 回開催する。
- ⑥ 中部・北部地域で出張イベントを開催する。

【重点項目 7】

(1) 読書バリアフリー法の推進に寄与

- ① 公共図書館職員向けの研修会を開催し、センターの役割や所蔵するコンテンツの周知を図る。
- ② 公共図書館と共催で読書会などのイベントを開催する。
- ③ オーディオブックイベントなどを通し、視覚障害当事者の声をオーディオブック提供機関に届ける。

【重点項目 8】

(1) 感染予防、防災、減災対策の推進

- ① 人が集まるセミナーやイベントを開催する際は、会場内の換気に注意する。
- ② 発災時にセンター内にいる利用者、支援者、職員の安全、安心を確保するため、定期的に防災訓練を行う。
- ③ 感染予防、災害に備え、マスク、除菌液、飲料水、非常食などの衛生用品・防災用品を計画的に備蓄する。
- ④ 川崎市視覚障害者福祉協会や他の関係団体との連携を強化し、災害に備える。

【重点項目 9】

(1) AI に関する基礎知識の習得と検討

- ① ボランティアの減少が想定される状況を踏まえ、視覚障害者の読書環境を継続的に支えていくための手段の一つとして、AI の活用について検討する。
- ② 職員研修を実施し、AI に関する基礎的な理解を深めることで、業務の安定化及び効率化など、今後の体制づくりにつなげる。

参 考

2026 年度(計画)

(1) 資料の閲覧・貸出

① 利用登録者数	540 名
(内 新規登録者数)	40 名
② 利用登録団体	310 施設
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供	
(ア) 蔵書数 (タイトル)	3,610 タイトル
(冊数)	13,350 冊
(イ) 蔵書数の変化 (新収書)	70 タイトル
	250 冊
(ウ) 貸出数 点字図書	310 タイトル
	930 冊
(内 他館借受)	(50 タイトル)
	(100 冊)
点字雑誌	200 タイトル
(エ) 点字データコンテンツダウンロード提供	
● メモリーメディア	10 タイトル
④ 録音図書の蔵書数および貸出・提供	
(ア) 蔵書数 (タイトル)	6,700 タイトル
(枚数)	6,700 枚
(イ) 蔵書数の変化 (新収書)	300 タイトル
	300 枚
(ウ) 貸出数	
● カセットテープ	5 タイトル
	20 巻
● CD図書	7,300 タイトル
(内 他館借受)	(5,000 タイトル)
● シネマ・デイジー (含む 音声ガイド)	700 タイトル
● CD雑誌	4,000 タイトル
(エ) デイジー図書コンテンツダウンロード提供	
● メモリーメディア	4,410 タイトル
● デイジーオンラインサービス	300 タイトル
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	320 件

(2) 資料製作

① 点字図書の製作数	
(ア) 委託製作数	20 タイトル
	100 冊

(イ) 委託外製作数	20 タイトル 100 冊
② 録音図書の製作数	
(ア) 委託製作数	49 タイトル
音訳	
デージー編集	80 タイトル
(イ) 委託外製作数	19 タイトル
(ウ) 外部委託製作数 (録音雑誌)	12 タイトル(月刊誌1誌)
③ シネマ・デージー (音声ガイド) の製作数	
(ア) 委託製作数	10 タイトル
(3) プライベートサービス	
① 点字図書の製作数	10 タイトル
② 音声デージー・テキストデージー等の製作数	15 タイトル
③ 対面朗読	10 件
(4) ボランティアの養成	
① 点訳ボランティア連絡会	2 回
② 点訳ボランティア相談会	3 回
③ 点訳ボランティア校正者会	2 回
④ 点訳者養成講座	17 回
⑤ 音訳ボランティア連絡会・スキルアップ研修	2 回
⑥ 音訳ボランティア校正者会	4 回
⑦ 音訳者養成講座 ー基礎編ー	10 回
⑧ シネマ・デージー勉強会	1 回
⑨ シネマ・デージー編集者養成講座	2 回
⑩ ICT ボランティア団体との連絡会	1 回
(5) 訓練事業の取り組み	
① 訓練者数	30 名・・・250 回
(内 新規訓練者数)	5 名
内訳 (複数提供あり)	
歩行訓練	10 名・・・100 回
パソコン訓練	4 名・・・20 回
ICT 訓練	10 名・・・70 回
点字訓練	3 名・・・40 回
生活訓練	3 名・・・20 回
② 相談者数	400 名・・・780 回
内訳 (複数提供あり)	
歩行相談	80 名・・・140 回
パソコン相談	30 名・・・60 回
ICT 相談	60 名・・・150 回
点字相談	10 名・・・50 回

	生活相談	140名・・・250回
	補助具相談	80名・・・130回
③	訓練生交流会	開催数 5回
④	訓練生屋外交流会	開催数 2回
⑤	用具の展示と斡旋	展示点数 410点 斡旋点数 1,450点

(6) 啓発普及

① イベントの開催

- 音声解説付き DVD 映画の体験上映会 毎月1回開催 12回
- れきおんクラブ（歴史的音源を聴く会）奇数月開催 5回
- CDで聴くクラシック音楽講座 偶数月開催 5回
- ヨガ教室 5・6・9・11・1・3月 午前・午後の2クラス開催 6回
- 音楽コンサート、落語会など 5月・12月・2月 3回
- 図書利用者交流会（読書会など） 6月・1月 2回
- センターまつり 12月 1回
- 出張イベント（中部・北部地域） 2回

② 広報誌の発行

- ぶっくがいど（偶数月） 6回
 - メールマガジン「アイ eye」（2回/月） 24回
 - 音声版メールマガジン「アイ eye」（奇数月） 6回
- *メールマガジン「アイ eye」の2か月分を再編集して合成音声化したもの